



学校だより

(冬休み号) 令和4年12月23日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

- ◎ 夢 (ゆめ) にむかって ともに学びあう学校
 - ・すすんで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子

よいことを進んでする気持ちよさ

～ 人権週間の取組から ～

校長 白石 徳一郎

12月は赤い羽根共同募金の一環として、地域歳末たすけあい運動があり、本校でも児童会が中心となって、全校児童に呼びかけ、募金活動に取り組みました。「つながり、ささえあう、みんなの地域づくり」をスローガンとして、地域の誰もが安心して、あたたかいお正月を迎えることができるよう、共同募金の一環として、社会福祉協議会等の協力により、地域の様々な福祉活動が実施されています。

学校で募金活動を行うことは、募金の金額だけでなく、高齢者や困っている人に関心をもち、助け合い活動として募金活動があることを知り、進んで協力しようとする心と態度を育むことに教育的意義があると考えています。募金をする子どもたちの顔は、少し照れながらも嬉しそうに見えました。赤い羽根をもらい、よいことを行った満足感を感じたのではないかと思います。また、6年生から話を聞いた防犯ボランティアさんがお手紙と募金を持って来てくださいました。いただいたお手紙をご紹介します。



赤い羽根募金係へ

一足早い登校する六年生。どうしたのと問い掛けますと、赤い羽根の募金係だからと答えてくれました。そんなわずかな会話でも旗振りおばさんにとっては、とても嬉しい事でした。おばさんにも協力させてくださいね。

皆様からいただいた募金金額は、**25,759円**にもなり、赤い羽根共同募金事務局へ入金させていただきました。ご協力ありがとうございました。

さて、12月は人権週間(4～10日)、世界人権デー(10日)、北朝鮮人権侵害問題啓発週間(10～16日)などがありました。7日の校長講話では、横田めぐみさんを通して、北朝鮮による拉致問題という大変な人権問題が今も続いていることを児童にわかりやすくお話ししました。北朝鮮が拉致を認め、謝罪し5人の拉致被害者が帰国したのは20年前のことです。20歳の方が生まれた年であり、それよりも若い世代は生まれる前の話です。知らない若者がいる今、伝えていくことが上の世代の責任だと思います。

平成23年から毎年、政府から全国の教育委員会に拉致問題等に対する理解を深めるための取組を推進するよう依頼があり、さいたま市教育委員会でも依頼に基づき、学校教育での取組を推進しています。多くの拉致被害者の方々は今もなお、生きていて、帰国できる日を待ち望んでいらっしゃることを私たちは決して忘れてはなりません。

拉致問題の解決のために、私たちにできることは、何があるでしょうか？

まずは、関心をもち、意見を発信していくことだと思います。産経新聞に「めぐみさんへの手紙」の募集があります。選考された手紙は産経新聞の特集記事に掲載され、拉致問題の啓発のために役立てられます。多くの国民が関心をもち、声を上げることが解決に向けての大きな力となることと信じています。6年生が、先日の道徳の授業を通して理解を深め、自分の気持ちを発信してくれました。児童の手紙の一部を抜粋して紹介します(原文のまま)。

<6年児童の手紙より>

めぐみさんお元気ですか。元気だといいいと思います。私は白石校長のめぐみさんの授業を受けて、初めてしっかりと内容を知ることができました。(中略)めぐみさんは、普通に普通に幸せを願っていたのだとわかりました。めぐみさんは、突然、本当に突然、家族から引きはがされたのだとわかりました。めぐみさんが大事にしていた家族は、めぐみさんのことを思い、今も活動しています。(中略)めぐみさんが幸せな家族のもとに帰ることができるようにみなさんががんばっています。(中略)日本に帰ってくることを心より願っております。

<6年児童の手紙より>

めぐみさん、今どう過ごしていますか。私はめぐみさんのことについて校長先生の授業で知りました。そして、一日がとても大事ということを知りました。(中略)私たちは、めぐみさんのつらさを自分で実際に感じることはできません。けれど、めぐみさんに起こったことを少しでもわかってあげること、このことを知らない人に伝えることをしたいと思いました。(中略)やりたいことをやりたくてもできない人もいます。そう思って毎日を過ごしていきたいと思いました。

< 6年児童の手紙より >

横田めぐみさんへ

めぐみさんが家族と離れ離れになってから45年が経ちました。中学1年生だっためぐみさんは、大きくなったら何になりたかったですか？めぐみさん、覚えていますか？めぐみさんが広島にいた時、上級生にいやがらせをされて困っていた男の子、白石徳一郎さんのことです。白石徳一郎さんは今、私の小学校の校長先生です。白石校長先生は、学校で拉致問題について考え、家族のことや幸せについて考える特別授業をしてくださいます。6年生全員、アニメ『めぐみ』を見て、校長先生のお話を聞いて、拉致問題について真剣に考えました。私はめぐみさんから自由を、家族のみんなから幸せをうばった北朝鮮がにくいけれど、北朝鮮にいる人みんなが悪いとは思っていません。なぜなら、北朝鮮の人は、生まれる国を選ぶことはできないし、他の国を行き来する自由もないからです。(中略)

私は来年、中学生になります。めぐみさんが家族と離れ離れになった時と同じ歳です。めぐみさんのことは昔のことではなく、今も続いていることとして、白石校長先生は私たちに伝えてくださいました。めぐみさんのことを待って、伝え続けていると思います。これからは私たちも、みんなで考えたり、人に伝えたりしていきたいです。めぐみさん、白石校長先生に会いに来てください。家族だけでなく、校長先生をはじめ、話を聞いた私たち6年生もみんな、めぐみさんのことを待っています。一刻も早く、めぐみさんが元気に「ただいま！」と言って帰ってきて、「おかえり」と言うことができる、当たり前前の幸せな日常が戻りますように。

< 6年児童の手紙より >

拉致と私

私は小6の秋の時、拉致問題について学びました。ふだんテレビやニュースなどで取り上げている拉致について私は気にもしませんでした。しかし、校長先生が横田めぐみさんについて教えてくれて少し興味をもちました。(中略)横田めぐみさんは、当時わずか13才と幼いながらも、全く知らない異国に連れ去られてしまったのです。今年で拉致後45年を過ぎましたが、未だ行方不明のままです。なぜ拉致しなければならなかったのか、なぜ彼女が・・・と話を聞いていて何度感じて、とてもかわいそうに思いました。校長先生の話を知っているうちに、めぐみさんの両親の話が出てきました。(中略)滋さんは2年前87歳でこの世を去りました。最後に夢見ていた娘との再会を果たすことはできませんでした。私は、父親の滋さんが拉致問題の解決のために、政府や外国に頼みに行くなど、とても努力していたことを、この作文を書くにあたって初めて知り、とても悲しい気持ちになりました。拉致問題解決へ、横田さん両親だけでなく、様々な人が何十年も努力し続けたのにも関わらず、まだ解決へはほど遠いです。

こんな状態の中、私は何をすべきか、何か役立てることはないか考えました。しかし、答えは見つかりません。やはり祈ること、めぐみさんのことを忘れずにいることにつきると思います。人は2回死ぬと言われていました。1回目は肉体的な死、2回目は人々に忘れられることです。つまり、めぐみさんのことを忘れずに心に留めておけば、めぐみさんは生き続けられるのです。横田めぐみさん一日でも早く日本へ帰ってくださることを願っています。

めぐみさんに起こったことを少しでもわかってあげること、このことを知らない人に伝えること、めぐみさんのことを忘れずにいること、これらはとても深く大切な言葉だと思います。児童の手紙を読んで、拉致問題解決へ関心が広がり、皆様の温かい心の輪が広がり、拉致被害者を救う声が広がることを願っています。

次に、署名や募金への協力があります。募金の一環として、ブルーリボンバッジ等の購入もあります。今月、校長講話でブルーリボンバッジを紹介したところ、たくさんの児童が購入してくれました。児童の皆さんが購入した代金の合計は**24,500円**にもなりました。拉致被害者救出のための募金として「救う会埼玉」にお渡しいたしました。ご協力いただいた児童の皆さん、保護者の皆様、ありがとうございました。

< 6年児童の手紙より >

横田めぐみさんも北朝鮮に行って、ずっと帰りたいと思っているはずなのに、がまんしていてすごいと思いました。ぼくは、めぐみさんを返してほしいと思い、募金しました。これで、らち被害者を一人でも早く助けられたらと思いました。

そして、購入したブルーリボンバッジを身に付けて、「私は拉致問題の一日も早い解決を願っています」というメッセージを発信することもできます。本校児童に、ナップサックにいつもブルーリボンの缶バッジをつけてくれている児童がいます。大変嬉しいことです。今回、購入したバッジを早速、名札や洋服に着けてくれている児童もいました。ぜひ、バッジを大切に、日頃から身に付けてもらえたら嬉しく思います。

12月は、よいことを進んで行う児童の姿がたくさん見られました。小さなことでも行動に移すことは大切です。よいことを行うと、心が浄化されるような心地よさを感じることはないでしょうか。これは、よい行いを行うことで自己肯定感が高まっているからではないかと思います。電車で席を譲った時に、なんだか心がくすぐったいような気持ちになるのも、思いやりのある行動をとることで、オキシトシンという愛情ホルモンが分泌されているからではないかと考えられています。「人に見られていない時こそ、真の姿」という言葉もあります。誰にも見られていなくてもよい行いが自然にできるようになりたいものです。

末筆になりましたが、一年間、本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございました。皆様、どうぞよいお年をお迎えください。

